

1 開催日

令和3年7月6日（火）13：30～15：30

2 開催概要

(1) 出席委員

横山会長、太下副会長、北川委員(オンライン)、木下委員、澤田委員(オンライン)、柴田委員(オンライン)、鈴木委員、遠山委員、仲道委員(オンライン)、松井委員(オンライン)、宮城委員(オンライン)、森谷委員（計12名）

(2) 議題

・第5期ふじのくに文化振興基本計画の策定に向けた論点に関する審議

3 発言要旨

(1) 基本目標

- ・「多彩な文化」は表現としてあいまい。ローカル化、グローバル化を踏まえ、「多様な文化を認め、尊重して受け入れていく」という認め合う言葉の方が時代の課題に合っているのではないか。（澤田委員）
- ・「誰もが表現者」という言葉はどう受け取られるかは少し心配。大井川の無人駅や富士の山ビエンナーレ、SPAC忠臣蔵など、みんなが参加し「自分もできる」ところから「誰もが表現者」が理解されて定着していくとよい。（鈴木委員）
- ・「風土」とは、自然環境や社会文化など多様な要素が混じり、時間を経て醸し出される広い概念であり、文化だけで「“しずおか”の風土づくり」と言い切ってしまうとよいのか。（森谷委員）
- ・「皆」という言葉はあまりふさわしくないのでは。言い換えると、生涯を通して文化に親しむことができる静岡を作ることだと思う。（木下委員）
- ・「心の健康長寿」で何の日本一を目指すかがよく分からない。心がけの問題なのか、あいまいである。（木下委員）
- ・基本目標の考え方には、静岡県の特長である広域性は外せない。「誰もが表現者」に「いつでもどこでも」という意味合いが加わると、広域性が増す。（柴田委員）

(2) 計画の方向性

- ・4期までの実績を前提として、「誇り高いものを輝かせる」「子どもたちを育てる」といったますます高くしていく部分と、「日常の中の多種多様な文化を認める」といった裾野を広げる部分と、2つの方向性があり、それぞれを書き分ける必要がある。（遠山委員）
- ・基本目標は施策の集大成であるので、次回審議会では、施策の具体論をした上で、基本目標に立ち戻るのがいいのではないか。（太下副会長）
- ・施策が抽象的なので、具体的に盛り込んでほしい。発信力を持つ計画、エンジンになるような計画でないと、進歩しない。（北川委員）

(3) 重点事項

- ・静岡は食文化は豊富であり、例えば食文化ミュージアムなども考えられる。ハコモノになるかはさておき、調査研究や成果発表なら Web 上のミュージアムでもできる。(太下副会長)
- ・指導者がいなくなるなどでイベントが実施できなくなった地域の文化資源もある。そういった場合でも、アドバイスやマップの作成などでアーツカウンシルが後ろ盾となってもらえるとよい。(森谷委員)
- ・中高生演劇鑑賞では、演劇を見られない引率の先生もいる。先生にワークショップに参加してもらい、表現することを体験し、表現する楽しさを知ってもらった上で子どもたちを引率してもらおうとよいのでは。(宮城委員)
- ・学校教育のありようも含めてこの審議会でも話をしていく必要がある。(横山会長)
- ・(対象をむやみに広げなくても) 子どもに焦点を絞った計画にすれば、そこから若者・大人・高齢者へと広がっていくのではないか。(松井委員)
- ・(芸術の都へ広げる) 拠点としてのアーツカウンシルの活用が大事なので、うまく結びつけてほしい。(鈴木委員)
- ・評価指標を数でなく変化率で設けることで、どう変化するのがいいのか、何を目指すのかが明確になる。(仲道委員)